

# 上海万博を関西から盛り上げよう！ — 上海万博応援団を結成 —

わが国そして関西の高度成長期のシンボリックなイベントであった大阪万博(日本万国博覧会、EXPO70)から40年。本年は、世界の経済成長をけん引する中国の一大経済都市であり、大阪の姉妹都市でもある上海で国際博覧会の開催が予定されている。当会では、「上海万博応援団」を結成し、この上海万博を関西から盛り上げていく。

## 上海万博の概要

上海万博(正式名称:2010年上海国際博覧会EXPO2010 Shanghai China)は、本年5月1日から10月31日まで、中華人民共和国上海市の黄浦江兩岸、南浦大橋と盧浦大橋間の濱江地区で開かれる予定の国際博覧会である。

博覧会テーマは「より良い都市、より良い生活」である。このテーマは、将来の都市環境においてより良い生活を望む全人類の共通した願

いと、国際社会の主な関心を表している。

また、サブテーマには、都市における、①多元文化の融合、②経済の繁栄、③科学技術の革新、④コミュニティの再生、⑤都市と農村の対話の5つを掲げている。会場面積は328ha、200の国家と国際機関の出展、7,000万人の見学者を見込んでいる。

わが国からの出展は、①日本館[政府出展(一部民間企業)]、②日本産業館(民間企業出展)、③ベストシティ実践区大阪ケース(通称「大阪館」:

大阪府・大阪市出展)の3つである。

日本館のテーマは「心の和、技の和」である。日本館パビリオンの愛称は「紫蚕島(かいこじま)」で、エココントロール技術を採用するなど最新技術を使用している。

また、日本産業館のテーマは、「Better Life from JAPAN(日本が創るより良い暮らし)」である。同館は、堺屋太一氏が総合プロデューサーを務め、日本の企業や自治体が連合して出展する。

そして、大阪ケースのテーマは「環境先進都市 水都大阪の挑戦」であ

## 〈上海万博会場図〉



大阪ケースが入る施設



ベストシティ実践区拡大図

## 上海万博応援団 村山 敦団長インタビュー

—上海万博応援団の意義をどのようにお考えでしょうか。

そもそも関西で上海万博を応援する背景は、上海と大阪府・大阪市が古くから友好都市関係を結び、長い友好の歴史があることです。また、上海万博と1970年の大阪万博は、どちらもそれぞれの国の経済発展の勢いを象徴するような万博であるという点で、共通する部分があります。もともと地理的な条件もあって、関西と中国は経済的にも非常に関係が深く、多くの企業が中国に進出しています。つまり、中国との関係が今後の関西経済にとって非常に重要であるということです。

そういったことをふまえ、上海万博応援団の意義とは、20世紀の発展を象徴する万博の主催都市である大阪から、まさに今世紀の発展を象徴する上海万博へエールを送るということだと思います。そしてエールを送りながら、上海と大阪、中国と関西の地道な関係強化を行っていくことが重要です。

—この上海万博を契機に、関西と中国の間で今後どのように関係を発展させるべきでしょうか。

上海万博の参加人数のうち、外国からのお客さんは約350万人と見込まれ、その中で約150万人が日本人といわ

れています。私はそういった人と人との交流が両国・両都市のさまざまな関係を発展させる基本だと思います。

ビジネスの観点では上海万博のテーマ「より良い都市、より良い生活」が中国の最大関心事だろうと考えています。中国ではここ数十年都市化が急速に進むなかで(環境面など)さまざまな問題が起こっています。それに対し、関西は「環境先進地域・関西」として水インフラなど環境技術の面で大いに貢献できるので、今中国が持っているニーズと、関西が持つ長所は、うまくマッチングしていると思います。そこで万博での交流を通じ、例えば関西の水ビジネスや、代替エネルギーのビジネスなどにつなげていきたいと考えています。

—団長としての抱負をお聞かせ下さい。

応援団としてしっかり万博の内容を勉強して上海に行き、できれば上海の経済界とも交流したい。また大阪府・大阪市のイベントに対する応援も行いたいと考えています。



る。水を生かした持続発展可能な都市づくりを行ってきた大阪の官民の環境技術、先進的取り組みを紹介する。

## 上海万博応援団について

当会では、本年1月、「上海万博応援団(団長：村山敦・広域基盤整備委員会物流担当委員長、関西国際空港相談役)」を結成した。本応援団は、上海万博の成功を積極的に支援することにより、中国との一層の交流強化をはかるとともに、関西国際空港の利用促進や平城遷都1300年祭のPRを行うことを目的としている。

応援団の活動は次の3つである。第一に、関西の自治体のイベント日に合わせて上海を訪問し、万博に参加する。時期は大阪府・大阪府が設ける「なにわの日(7月28日)」、そし

## 〈大阪館の正面図〉



て奈良ウィーク(7月23日～29日)を念頭に、7月下旬を予定している。また、今回の訪問に合わせて、上海の経済団体等にも表敬訪問を行う予定である。

第二に、上海万博に関する情報提供を行うために、講演会などを開催する。すでに、第1回講演会を2月25日に開催し、駐大阪中国総領事館領事・政治・文化室長の殷達奇氏から「上海万博の概要について」、上海万博大阪出展実行委員会プロデューサー・大阪府立大学教授の橋爪紳也氏から「上海万博を契機に大

阪・関西を世界へ発信」と題して講演いただいた。

第三に、双方向の情報発信活動を展開する。①上海万博への参加を関西で積極的にPRする、②上海側に観光やビジネス交流での関西訪問を呼びかける予定である。

具体的には、平城遷都1300年祭をはじめ関西の観光の魅力をPRするとともに、「日中ビジネス・フォーラムin関西」など、関西で開催するビジネス交流の機会への積極的な参加を呼びかける。

(国際部 徳田龍裕)